

大好き！絵本

初瀬 恵美

ご入園・ご進級おめでとうございます



『てんとうむし ぱっ』
文：中川ひろたか
写真：奥田高文
出版社：ブロンズ新社

春の花々が咲きはじめ、明るくにぎやかな春がおとすれましたね。そして、暖かくなると出てくるのが「虫」たち。子どもたちは葉っぱや石の下などいろいろなところを探し、「虫」を見つけています。

今月は、子どもたちが大好きな生き物が沢山でてくる『てんとうむしぱっ』をご紹介します。

この絵本は「絵」ではなく「写真」と短い文で構成されています。

余分な背景を削除した真っ白な背景は、「虫」や「生き物」がはっきりとし、目に飛び込んでくるようになっていきます。添えられている言葉もとてもシンプル。単純明快、的確な短い言葉が写真にぴったり合っています。子どもたちはこの絵本が大好きです。保育園では、絵本は表紙が見えるようにして子どもの目の高さに合わせて置いているので、表紙に「てんとうむし」を見つけると、喜んで保育士に持ってくる子が多いです。そして絵本を開いて、再度てんとうむしを発見すると、単語がまだでない小さな子ども達も「おっ、おっ！」と声を出して「いたよ、いたよ、(てんとうむし) いたよ」とその喜びを表現してくれたりします。「てんとうむし」と私がいうと、その口元をじーっと一生懸命見つめています。まるで言葉を視覚からも吸収しようとしているかのような眼差しです。次のページを開くと、てんとうむしが飛び立つ場面です。すると、「おーっ！」と感動してまた私をみてくれます。「とんだね！」という感動を一緒に共有したい思いを視線で送ってくれているのです。その思いを受け止めて「ぱっ」「とんだね～」というニコニコしています。

こんな素敵なやりとりが何度も繰り返される絵本。一瞬にして子どもの気持ちを動かして、絵本の世界へ導いてくれる絵本です。お子さんとのコミュニケーションが楽しくなる素敵な絵本ですよ！暖かくなり、虫たちが動き始めたこの時期におすめの一冊です。ぜひご覧ください。

